

言葉を伝える

今回の学習のポイント

自分の本当に思っていることを書く
読み手のことを意識して書く

文章を書くときに気を付けなければならないことは何なのでしょう。どんな文章を書くときにでも、何をどのような言葉遣いで書くか、どのような構成にするかなどさまざまなことを考える必要があります。また、どんな人が読むのかも意識し、文章の内容や表現にも注意を払う必要があります。注意すべきことは、さまざまありますが、今回の学習では言葉で気持ちを伝える、心を伝えるにはどうしたら良いかを学んでいきたいと思います。

自分の本当に思っていることを書く

文章は考えながら書くものと思っている人も多いと思います。確かに、書く作業を通して、自分の考えが深まり、さまざまな事柄や別のことも考えることができます。しかし、書く前に、「何について書く」として「何を」を、自分の中で明らかにしておく、より相手に伝えやすい文章を書くことができるのです。書いているうちに、自分でも何を書いているのかわからなくなるという感想を持つ人も多くいます。ですから、「書くこと」と「考えること」を分離させることで、自分が何を書きたいのかが明確になります。書いているうちに、文章が迷子になってしまう事態を防ぐことができます。

読み手のことを意識して書く

メモや日記は、自分だけが読む文章です。しかし、読むときのことをイメージして書かないと、後で読み返すとき、何が書かれているか全くわからないということも起こります。メモや日記でも今書いている自分ではなくて、読むときの自分が読みやすいように書く必要があります。読み返したときに、何が書いてあるのか読めないメモや、単語が並んだだけの日記では読み返す気もなくなってしまいます。まして、自分以外の人が読む文章であるならなおさらです。読む人がどのような人なのかによって、使う言葉や言い回し、漢字の使用頻度などが異なってきます。書くときに、誰に向けて書いている文章なのかを意識するだけで、文章が読みやすくなります。

番組で、カレンさんも言っていますが、最近は、携帯電話のメールやSNSなど短い文章で相手に自分の考えを伝える場面が増えています。メールや電話など

ですぐに相手とコミュニケーションを取れる今だからこそ、自分の字で相手を意識して、思っていることを手紙にしてみたらいかがでしょうか。自分の大切な人に、本当に伝えたいことを伝えてみてください。

まとめ

一年間を通して、素晴らしい作品や素晴らしい出会いがあったと番組でカレンさんは言っていました。この学習メモを読んでいる皆さんも、さまざまな文章やさまざまな人との出会いがあったと思います。これからも、この番組で培ったことを生かしてってください。

言葉は、カメラの画素である和金田一先生が番組当初おっしゃっていました。世界を美しく切り取るための画素（言葉）が、多ければ多いほど世界を明瞭に見ることが出来ます。言葉に数多く触れ、多くの言葉を知ること、世界をより豊かに見えるようにしてってください。これからも、素晴らしい言葉に出会ってってください。